

1971年08月07日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）  
2001年03月14日発行 SSKA増刊通巻第3811号

SSKA

# ああるびい

## RP三重支部会報第4号

新しい世紀をむかえましたが、いろいろな人々は、21世紀はITの時代だとか21世紀は女性の時代などと言われてい  
ます。

しかしながら、私達RPの患者としては治療方法が確立した時代になると確信しております。そしてRPの患者が以前のような視力をとりもどして、JRPSがめでたく解散する時がくることを願ってやみません。

新年早々にそのような願いを聞き入れられたような福音がありました。その内容を記載させていただきます。

2001年1月3日（毎日新聞）

特報・人工眼

通産・厚生省が研究に着手、中途失明者に「光」

通産省と厚生省が4月から、網膜の機能が衰えて失明した高齢者らの視覚を取り戻す「人工視覚機器」の研究開発に乗り出す。半導体の一種で、光を電気信号に変える光ダイオードなどを網膜に埋め込み、微弱電流を神経細胞に伝える“人工眼”技術の確立を図る。国内で年間約1万6000人が病気で中途失明し、それを苦にした自殺も増加傾向にあるという。2010年ごろの実用化を目指し、本格的な高齢化社会を迎える中、大きな朗報となりそうだ。

同様の研究は米国の一部の大学で先行し、米政府が01年から5年間で約33億円の予算で実用化させる方針を表明している。また、ドイツ政府にも研究を手がける動きがあり、日米独の開発競争が始まる。通産、厚生両省は01年度から当初5年間で約25億円の研究費を見込んでいる。

年をとるにつれて網膜の機能が衰え、失明に至る「加齢黄斑（おうはん）変性症」などに有効とみられるが、研究成果によっては糖尿病の合併症で起きる網膜症にも応用できるという。

現在検討している方法は2種類。一つは、網膜に直径1センチ程度の光ダイオードを埋め込み、光を電気に変換して神経を刺激するやり方だ。もう一つは、めがねにCCD（電荷結合素子）カメラを組み込み、とらえた映像を赤外線などで網膜の人工チップに流し、情報処理した信号を視神経に送る方法。このうち、埋め込み型は、発電効率の高い超小型の光ダイオードの開発などが必要になる。また、めがね型は人工チップを網膜上に乗せる形になるため、安定性に難があるという。

両省は、参加企業や大学などを公募し、共同のプロジェクトチームを結成。光ダイオードの開発や生体反応、埋め込み手術の方法など研究に取りかかる。5年後にはサルなどでの動物実験を行い、7～8年後には治療法の認可申請にこぎつきたいと考えた。50センチ程度離れた自分の手の指の数や、信号機の場合などが判別できるほどの視力に回復させたいという。

中途失明した人のショックは大きく、介護者にも大きな負担がかかる。ぼんやりとでも視力を取り戻すことが社会生活への復帰の手助けになり、両省は「“人工眼”の開発で、自立的な生活を送れるようになれば」と期待している。

三重県でも リンゴ狩りが出来たよ。

J R P S 患者 小川明美

私達、R P 三重支部の秋の患者交流会として久居市にあるリンゴ園で、生のリンゴをかじってきました。リンゴと言う物は普通は生ものですがリンゴの木にぶら下がっている、りんごを下から上の方へちょっと押し上げるだけです簡単にもぎ取ることが出来ました。

リンゴの種類はフジでした。おしりが黄色くなっているのが、おいしいのだそうです

一緒に行った友達は革をむいて薄く切ってから前歯だけでリスのようにお上品に食べていたようですが、私はもぎたてのリンゴを私のでっかいお尻のところで、ごしごしふいてから、がばっとかぶりつき2個も、食べてしまいました。さらに革をむいて種を取ってもらい、半分食べてしまいました。やっぱり丸かじりの方が美味しかったです。

歯医者さんに言わせると私の歯もそれなりに年寄りになっているのであまり堅い物を食べないようにと言われてます。

その日の朝まで、降っていた雨で、リンゴ園の中はどろんこで足元はぬかったり滑ったりで、リンゴのお尻より黄色い歓声が飛び交っていました。

その日、お天気が良いければリンゴ園でお弁当を食べたり、交流会をしたり、ゆっくりする予定だったのですが朝まで降っていた雨で、予定を一部変更し、午前中は、我が母校の、三重県立盲学校の会議室をかりて、木村靖子さんの、二人乗りの自転車にボランティアの方の誘導で石川県をつっぱしってきた時の楽しかった体験を語ってもらったり、盲学校の生徒さんに盲学校のことを話してもらったり、質疑応答をした後、弁当を食べ

てからトイレを借りて玄関へ集合し、リンゴ園に向かって歩き始めました。30分ぐらいとぼとぼと歩く人やさっさと歩いていってしまう人、それは賑やかに歩いていきました。知らない人は、なんの行列かと思ったでしょうね。

帰りにはそれぞれお土産のリンゴを買ったり宅配便で送ってもらう人、みんな楽しそうにしていました。私は3キロのリンゴをリュックに詰め電車で帰りました。途中知り合いの人に出会いリンゴを一つだけあげました。隣にも少し、また知り合いにもあげて我が家には一個も残りませんでした。来年又リンゴ狩りに、友達と行きたいと思っています。どなたかご一緒しませんか。

## ハワイ旅行の思い出

木村靖子

ハワイへ行けるなんて夢のような事だった。視覚障害者のためのツアーがあると点字毎日で知ったときも成田発ではそこまでが無理だとあきらめていた。忘れた頃北陸の友達がそのツアーへ一人で参加すると言って来たので同行させて貰うことにした。パスポートを取るための手続きなどに夫が全面的に協力してくれた。しばらく書かなかった自分の名前を書くのにその大きさの枠を作ってくれて練習して書き込んだ。

次の問題は荷物だった。片手はつながり、片手は白杖を持てばあの大きなトランクをゴロゴロ引っ張って行くのは難しいから大きなリュックを背負って行こうかとも思ったが旅行社の方に相談したら「往復宅急便にすれば後は責任持つ」と言われたのでそうしたが土産物なども入れられて良かった。

東京駅のホームに多くの方が迎えてくれ、ゾロゾロと移動して成田エクスプレスで空港へ直行した。全盲の方が一人で参加しているのが多いのに驚かされた。これからは私も一人でも参加できるなあと自信がついた。ただし、ハワイに着いてからは現地にいる日本人が付いてくれると言うことだった。(費用はプラス五万円で)

それでは、旅行の様子をスナップ写真のような短歌に沿って述べてみます。

一 くつろぎて 機内に飲みし白ワイン

立てば奈落へ引かれるごとし

ハプニングは一つだった。往きの飛行機は夜九時四十五分発だったので葡萄酒でも飲んで眠ろうと思って沢山飲み過ぎて酔っぱらったのである。初めはそうとも知らず二時間ほどウトウトした後トイレに行く友達に起こされ立ち上がったとたんに酔いが回って座り込んでしまった。お水をコップ二杯もらったら嘘のようにスッと治ってもどすこともなく席に戻った。大事をとって胃薬は飲んで置いたがそれ以来帰宅するまで健康そのもので快調な旅行だった。

二 すぐそばに 泳ぐ熱帯魚触れたくて

ハナウマ湾の波に手を伸ぶ

着いた日はホノルル市内をバスで見学と買い物をして夕方にホテルへ入った。翌日はバスでハナウマ湾と言うところへ向かい午後二時頃までのんびり過ごした。浜辺の敷物の上でおしゃべりの花が咲いた。水着を持っていた私たちは海に入った。黄色や縞のある大きな美しい魚が群をなしてそばに寄ってくると言って、見える人が追い立ててくれるが触ることは出来なかつ

た。今年から餌付けが禁止されたので魚があまり近づかなかったのである。底は岩場で泳ぐところは狭かったけど帽子をかぶったまま少し泳いだ。

三 まだ暗き ホノルルの街に人群れて  
花火とともにマラソン今立つ

四 紙コップ 蹴飛ばし蹴散らし応援に  
手を振り十キロ勇みて歩む

五 地を蹴って 有森裕子は離れ行く  
優しき言葉握手残して

今回の旅行のメインはメイヤーズウオークである。マラソンを走れない人のためにマラソンと同じコースを使って10キロを歩くのである。午前五時花火が華々しく上がった。マラソン団が徐々に出発して行き私たちはそれらをおうように歩いていく。吸水地点には紙コップが散乱し、水がついていた。「隣に有森さんが歩いているよ」とパートナーが握手をさせてくれた。パートナーが健脚だったので二時間で歩くことが出来た。

六 アロハオエ 胸に沸ききてワイキキの  
浜に無言で立ちつくしおり

私たちのホテルは残念ながらワイキキとは離れていたが夕食の後でつれていってもらった。右手奥の、椰子の林の上に満月がかかり、その向こうに飛行機の離発着のライトが見え、白い砂浜に静かに波が打ち寄せる。背景にはホテルのざわめきが聞こえ、うっとりするようなひとときで立ち去りがたかった。

ハワイの気候は違和感のないすっきりした感じで、一緒に旅行した人たちとも仲良く過ごせたのもう一度ハワイへ行きたいと思う。

## エジプト・ギリシャの旅

内田順朗（記）

### 1 話のきっかけ

「、旅をもってすみかとする」と言った芭蕉のようにには現代人の我々には望むべくもないので、旅行に出るといのは非日常への脱出となるのでしょ。

そういう意味でしばしの非日常性の体験を願って私は旅を好むのです。未だ目を悪くしていなかった若い頃、いや目を病んでからもそうなのかも知れないけれど、暇とお金が共存しないという状況に基本的に変わりはありません。

一人旅・グループで行く旅・家族旅行・職場の旅行・新婚旅行・個人旅行・パックで行く団体旅行と旅には様々な形があります。もう20年近く続いているグループ旅行の会に私は最初から入っています。基本となるメンバーはほぼ固定していて旅行のプランごとに多少の新しい顔ぶれも入ります。全盲と弱視と晴眼者が1年置きに10数人で3～4日の国内旅行を続けてきました。北の果て利尻・礼文から沖縄のはて、与那国島にも行ってきました。目が見えていてもそうでなくても一度や二度は訪ねてみたいところは誰にでもあるものです。

旅情というのは楽しいものです。行き先を選択し、宿泊先と交渉をし、交通手段とタイムスケジュールを決める。歴史地理・うまいものうまい店特産物も調べてみる。そんなことに想いを巡らすだけで、それはもう旅人なのです。しかしながらそうい

うふうに自分だけの旅を組み立てることも、私にとってかなわぬものになりつつあることもまた事実なのです。

そういうわけで、上記のような旅行会が永く続いているのも、パッキングツアーにはないお好みの旅をそれなりにかなえてくれているからなのでしょう。

そのような私の旅の仕方をよく理解してくれている滋賀県のSさんから海外旅行の誘いがありました。彼は上記の会の幹事役と会計係をずっとしてくれています。旅行事情にもそれなりに明るいのです。今回の行き先はエジプト・ギリシャです。Sさんは弱視ですが、晴眼者で海外旅行の経験も多く英語も話せる人を連れていくので、あなた（私のこと）も誰か晴眼の友人を誘って出かけてみよう。その人の旅行費用の半分は私とあなたで負担するという条件でどうだろうというのです。

私は海外は初めてだし、行き先がちょっと遠いかなとの観もありましたが、費用的にもはっきり言って安いし願ってもない話だなと早速同行者探しにかかりました。意外にもとというか幸運にもとすべきかそれは簡単に見つかったのです。

その人T君は同郷の高校までの同級生で自営業をしています。海外は近いところは数回出かけているが、エジプトはかなり魅力だという。私も古代文明の地を訪ねることは興味のあるテーマなのでした。今回の旅のきっかけはこのようなことなのです。

## 2 案ずるより生むが安し

さて、話が決まってから出発まで2ヶ月ほどありました。T君は私のパスポートの申請にも県庁の旅券センターまでつきあってくれたり、旅行社への書類書きも快く手伝ってくれました。また、Sさんは何度も旅行社に電話して、当地の気候・衛星・治安物価等について綿密な情報収集をしてくれました。今回の



旅行の話の、最初から気がかりだったことの第一は、イスラム圏の治安の問題でした。確か5年程前には、ナイル川の上流ルクソールで日本人観光客が何人もイスラム原理主義者のテロにより亡くなっています。旅券センターでの海外旅行情報でもエジプトは危険度の高い方に入っています。それに隣接のイスラエルではパレスチナ問題がきな臭くなりつつあります。そのような情勢を考えていたところに入ってきたニュースが、ギリシャでの日本人観光客を乗せたツアーバスが銃を持った男にジャックされたというものでした。この事件は政治的背景も薄く日本人にとっては不幸な結果にはならなかったのですが、解決までの間には私たちの旅行も中止しようかとの話も出た程でした。

実際私たち4人は予定通りとすることにしましたけれど、旅行社から入った情報は、そのツアーは中止するから異なる日程のものに変更してほしいとのことでした。

中止になった理由が上記のような状況を勘案したものかどうかは分かりませんでした。多少とも事情の厳しさに気持ちが引き締まったことは確かです。結局、1月15日出発関西空港→カイロ→アテネ→カイロ→アレキサンドリア→カイロ→関西空港。8日間のものにと決定し代金を振り込んだのが12月の18日でした。

### 3 持っていく物をいろいろ用意はしたけれど

年末年始を控えていたとはいえ、具体的準備に入ったのはお正月の休み明けでした。いつものことながら差し迫らないと動かない悪い癖が出てしまうのです。着替えなどは季節と日数を考慮してめどをつけました。いわゆる旅行用小物類を一通り詰め込んだものの、歯ブラシとひげ剃り意外使うことはなかったです。ただ、何かの役にとあって持っていったビニールテープ

と小さなハサミはSさんのビデオカメラのちょっとした補修に役立ちました。片道14時間の機内での時間つぶしにと持っていった朗読テープですが、ジェットエンジンの騒音が結構大きくて、テープをイヤホンで長い時間聴き続けることは困難で、無駄になりました。荷物はできるだけすくない方がよいわけですが、パックスツアーでは空港のゲイトインからホテルの部屋までスーツケースを運んでくれるので重くてもかまわないのです。ただ帰りのお土産物を入れられるだけの十分なスペースを考えておいたほうが良いのでしょうかね。

#### 4 アルコールは出さないエジプト航空

イスラム教徒はお酒と豚肉は口にしないことは知ってはいましたが、そういうお国の航空機内ではアルコール類はサービスしないというのは知りませんでした。

狭くて窮屈な座席で長時間耐えるには、多少お酒の好きな私にとってはそれは必需品だと思っていたのですが・・・。そういうところは添乗員さんは心得たもので持ち込みの物ならばかまわないとのこと、ツアーの全員にワインの差し入れがありました。

関西空港から立って、朝鮮半島を横切り東シナ海から中国本土をまたいでヒマラヤの南側を西に向かう頃まではとても明るくて皆窓外を見たり話し合ったりしてました。その後暗くなってから私はアルコールのおかげで少し眠りました。目が覚めると程なくカイロ到着です。真冬の日本よりずいぶん暖かくて空気がカサカサと乾燥しているのがアフリカ大陸の第1印象でした。

#### 5 喧噪の中のカイロ、しっとりと落ち着いたアテネ

今回の8日間のツアーで、実質は現地で6日間にカイロ・アテネ・アレクサンドリアを訪問しています。まあ一忙しい旅ですねと現地の人にも言われましたが、そんな短いながらもカイロとアテネの街の印象にははっきりとした違いがありました。カイロ空港に着いたのは夜の9時半。入国手続き・バスで移動・ホテルでのチェックインと11時頃までかかりました。

市内の大通りは高速道路なのか2階建てになっていて、そこに車があふれやかましくクラクションを鳴らしている。ホテルのロビーは夜遅いというのに人でいっぱい。両替所も24時間あいている。ただし、チップ用にとドルを現地通貨の小銭に換えようとしたら、スモールはツモローモーニングだと言われました。

ホテル内のレストランやショップで働く人たちは多くは男性でしたが、とても陽気で生き生きと楽しそうに働いている様子でした。

ホテルはラムセス・ヒルトンで、いわゆるアメリカンタイプの高層ホテルでしたが、窓からはナイルの支流に架かる橋に一晚中車があふれ、その向こうにカイロタワーやシェラトンホテルの高層建築が見えているようでした。

それに比べてアテネでは、再開発が制限されている旧市街地に位置したヨーロッパコンチネンタルスタイルの旧式のホテルでした。気温も低いとはいえ風もなく寒いということはありません。とてもしっとりと落ち着いた感じの街並みです。昔懐かしいトロリーバスが静かに走り、2両連結のバスもあります。

2004年のオリンピックを控え、新しく地下鉄や新空港の建設が急ピッチのはずなのに、アクロポリスの丘から眺める市街地はとても落ち着いた静かな様子でした。それでも話によると、欧州共同体の仲間となり関税が低くなったせいで自動車が

急増し道路は路上駐車で一杯とのこと。

面白いと言うのかあきれたと言うのか、ホテルのエレベーターにはびっくりしました。乗り降りするときには建物側のドアを手で開閉し、エレベーター側には内側のドアはありません。建物の壁がそのまま手で触れられる常態のまま上下するのです。気を付けていないと持ち物や衣服が巻き込まれそうです。ギリシャの人は地中海の風土のこともあり陽気で楽天的なのですが、やはりヨーロッパ文明の発祥の地という誇りを意識しているそうです。従ってホテルで働いている人も通りを歩く人も静かで落ち着いているように見えました。

バスジャックの話は上にもしましたが、ガイドさんによるとギリシャでは凶悪事件は少ないものの、ただしそこに物が置いてあるとつい失敬してもって行く、悪いこととは知りながら抑制がきかないのだと言っていました。そういう意味であの事件の結末には納得がいくのかなあという印象です。

## 6 カイロのインテリガイドさん

エジプトでの観光には現地人のガイドさんが付きました。大学の日本語科を卒業して10年という独身の女性。流暢な話しぶりでとても熱心に説明をしてくれます。古代エジプトの文化財を集めたカイロ博物館の圧倒的なスケールの中での説明はとても迫力が有りました。

また、郊外に出て砂漠の中の移籍やアレクサンドリアの博物館では、視力のない私のために手を取って壁画や彫刻に触らせてくれました。ただしこれは見つかるらと注意されそうでした。旅の思い出に残る一人だといえます。

博物館の中でミイラの展示室は特別の料金を取りますが、白杖を見せて手振り身振りで説明したら私だけ無料にしてくれ

ました。

## 7 街のレストランの窓からピラミッドが見える

エジプトは砂漠の国です。ナイル川の流域にのみ街と耕地が開かれています。古代から基本的に変わりはないのです。とにかく国土の95%は利用されていない荒地なのです。

古代の遺跡もナイルの流域に点在しているのですが、意外にも一番有名なギザの3大ピラミッドとスフィンクスはカイロのすぐそばにありました。カイロは河口から300キロ上流のデルタ地帯に広がり人口1200万。全人口の20%を集めていますが、その隣町がギザです。

その街のレストランの2階の窓からその3大ピラミッドが見えているのです。街からそう遠くない砂漠の中にそれはあります。4500年前の古代の遺跡と大都会が目と鼻の先にあり、とても不思議な気持ちになります。

ピラミッドにもいろいろありました。きちんと正四角錐になっているもの近づくとも階段状になっているもの・表面が風化して砂山の斜面のようにずるずると崩れかかっているもの・てっぺんが削り取られているもの・地下に潜れるように解放しているもの・修復中のものなどです。

中にも入ってみました。入り口は腰をかがめないと頭をぶつけるくらい低くて階段も旧幅も人がすれ違えるくらい、1メートルくらいかな。換気装置もないので中は蒸し暑い。しかし結構大きな空間が内部にはあるのです。いったい何のために、どういう工法でまたその技術力と科学力はどんなだったのか・・・と見学を終えてからも皆でしばし思い思いの感想を語り合いました。

時の長さとも規模の大きさに今更のごとく感動を新たにしました。

## 8 旅の楽しみは食べ物と土産物

やはり香辛料の香りのするものが多いようです。エジプトは砂漠国ですが、なんと農産物の輸出国だそうで、食料は豊富のようでした。

旅行前には生野菜やくだものは食しない方が良いのではと考えていたのですが、その心配はなさそうでした。たいていの食事は口にしました。機内食は大したことはなかったのですが、ホテルの朝食や昼食での現地風のメニューも新鮮な野菜がおおく、焼きめし風に調理したお米も美味しいものでした。パンも咬みごたえがあって、私にはいい物でしたが、お菓子の類は砂糖がたっぷり、これは夏の暑さのためのエネルギー源かなとも思われました。ただ、とても美味しかったのはナツメヤシのみを乾燥させたお菓子でした。干し柿のような感じがするもので中にアーモンドの入っているものです。ジュース類も多くて、特にグアバジュースはグッドでした。

ギリシャはナッツ類とオリーブの産地です。チョコレート工房ものぞきました。エーゲ海クルーズで立ち寄った島の商店街の散策は楽しいものです。いろんな工芸品を売る店が並んでいて、あるお店で日本刀を見つけたのには驚きでした。

そのような店に混じって日用品を売る小さなスーパーがあります。そこに入って見ました。現地の人々の生活の一端がかいま見られるかなと思ったからでした。チョコレートとクラッカーを買ってみました。

土産物屋さんではどこでも値段交渉でした。ブロークンな英語と手振りとで、たいていは通じるものでした。値引きは結構してくれるものです。

## 9 アテネのオリンピックスタジアムで400メートルを走

ってみました

遺跡の中に街があるようなアテネはゆっくりと訪ねてみるのがふさわしいところのようです。近代オリンピックが100年前に開かれたというスタジアムがあります。次の大会はここで開会式をするそうです。6万人収容のスタンドがあり自由に出入りできるようでした。ガイドさんが走ってみてはというので、T君と記念にと思って走ってみました。ツアーの仲間たちが応援してくれる拍手の音がスタンドに反響してとても良い気分でした。

## 10 失業対策に砂漠の開墾

カイローアテネ間は航空機で2時間。ナイルに沿って開墾地が上空から見える。掘り割りの水路がまっすぐに延び長方形に区切られた農地が続く。エジプトでは大学を出てもなかなか良い仕事には就けないという。そのため政府はこのような砂漠の土地を与えて開拓を促そうとしているのだそうだ。この10年でそれはかなり進んだという。隣国イスラエルとの和平が成立し国力を国土の開発に向けることができたせいだろう。

アラビア半島の国々や西隣のリビアと異なりこの国には石油は産出しない。最近天然ガスが出たらしいが、主たる産業は農業と観光だ。エジプトはとにかく人があふれ活気に満ちた国である。

## 11 地中海の北と南

ギリシャのエーゲ海はやはり北に位置するため寒さがあった。私たちが訪れた数日前には海が荒れて船が出なかったそうだ。地中海のリゾート地としてにぎわうのは、夏のシーズンだそうだ。

同じ地中海でもアフリカ側の海岸は空も海も明るかった。ツアー最後の宿泊はナイル河口のアレクサンドリアだ。ここも市街地はにぎやかなところである。カイロとは少し雰囲気異なる感じがする。

遺跡と人々の日々の生活が混在している。ボンベイの壁というモニュメントのような巨大な石の壁が住宅地の真ん中にそびえ立っている。支配力を誇示するためのものか、あるいは宗教的な意味があるのか。ナイルの上流から運んできて王に献上されたものらしい。驚くばかりである。

この町では私たちはポリスの白バイに先導されて車で混雑する道路を走っていた。渋滞する車の列を横目に反対車線を堂々と走るのである。

ここはヨーロッパと海を介して交流があり、ギリシャ文明の影響も大きくうけている。その郊外の海岸地帯に開発された高層アパート群の中にあるリゾートホテルでの宿泊。海岸に出ると親子連れが魚釣りをしている。私たちが様子を眺めていると、英語で気軽に話しかけてきた。現地の人なのか外国からのリゾート客なのかは分からない。海も空もとても明るい。

発展途上ではあるがここにも活気が現れているようだ。海岸通りの片側2車線の幹線道路を車がひっきりなしに突っ走っている。そこを横断しないとホテルにはもどれない。信号はないから車の切れ目に走ってわたるのだが徐行などしてはくれない。むしろ遠くからクラクションをならして逆にスピードを上げてくる。これで事故が起きないのが不思議なくらいだ。

## 12 旅は道連れ

とにかく大したトラブルもなく、天候にも恵まれて楽しいツアーだった。友人のT君はよく手引きをしてくれたし、窓外に



見えるものの説明もしてくれて退屈することはなかった。ツアーの人たちとも結構仲良しになった。新婚旅行のカップルがいて、お嫁さんがアテネで風邪を引いたらしい。私の連れのT君は薬屋さんである。風邪薬は一通り持ってきたので症状を聞いて飲ませてあげた。幸運にも効果が出て元気になった。また、旅慣れたご夫婦がいて、食事が合わないといけないのでカップ麺と湯沸かしを持っているからと、食欲をなくした花嫁さんにカップ麺を食べさせたりコーヒーを沸かしたりと親切にしている。そんなわけでこの人たちとは結構親しくなり仲間意識も出て楽しい時を過ごすことができた。

私も時々ツアーの人たちに手引きをしてもらったり一緒に土産物を買ったりと結構手助けをしていただいた。

しばしの異文化の体験の旅でしたが、このような恵まれたチャンスがまたあればよいのにと思いつつ旅の感想を書いてみました。

2001年2月

## 新春交流会に出席して

今回は企画しました立場から患者会員からの意見を討論形式で書かせてもらいました。協力者は晴眼者の旦那さんを持たれた主婦二人に答えてもらった様子に乗せさせていただきます。

◎レポーター……集合時間はあの時間で良かったですか。どのような交通機関を利用されましたか。

◎チサ子……私にとっては丁度良い時間でした。それは鳥羽ですので志摩からくるのには近かったからです。交通は車に乗せてもらえました。

◎君子……私も志摩から出て行ってチサ子さんと同じに出席しました。朝もゆっくりでしたので出やすかったです。

◎レポーター……午前中の桑原春夫さんの講演はいかがでしたか。

◎チサ子……私の旦那に聞かせたかったです。とっても楽しいユーモアのある話で時間を忘れて聞き入ってしまいました。堅苦しい話と違ってこんな講演をもっと持ってほしいと思います。なかなか男の人では出来ないことや、旅行でのお風呂やトイレの介助などを、私の旦那と比べれば月とすっぽんの違いです。それはどうにかトイレはしなければいけないので男子トイレに連れて行ってはくれます。いつの日だったか病院で女子トイレに連れて行って表で待っているときに掃除婦の方に「男子トイレはあちらですよ」と言われてから女子トイレには連れて行ってはくれなくなりました。風呂などはもってのほか一緒に入ってはくれません。

料理など家事はインスタントラーメンを作るぐらいで何も出来ないんです。病気で寝た時は「ナベタマかうか。」と言って何を作ってくれたかわかりますか。玉子ご飯が鍋に入っているだけでした。名前は上品ですがこんなものなんです。

それとか、ガイドをする時には自分のペースで歩くために私の事など考えてくれません。とっても優しい私思いの旦那です。桑原さんの旦那さんと交換してもらいたいです。私の旦那を桑原さんの奥さんにお貸ししたいです。そうすれば桑原さんの旦那さんのありがたさは一層良く感じ取れるのでは無いでしょうか？桑原さんの旦那さんも私ならば二人会わせて150才にもならず130才代だと思いますよ。その変わり私は人使いが悪いかもね。わっはっは。

とってもうらやましく思った講演でした。桑原さんの奥さん、

うらやましいです。いつまでも仲良くしてください。

◎君子……私もとっても良い講演だったと思います。まずは私の家族に聞かせたかったです。

桑原さんのお話の後で白杖の事が話し合われました。その時杖を持っている人はこんなのが便利だとか、人ごとのように思わずに自分のことのようにその事について熱心に話し合っている様子を見て感心しました。ガイドのある時にも自分は白杖を持った方がよいこととか、杖の種類で石突きにキャスターの付いたのを見せてもらって感心しました。このような話し合いの場をもっと持ってもらいたいと思います。

◎レポーター……お二人の講演内容を聞いて桑原さんをお願いして快くお引き受け頂、その上、とっても有意義なよく似た家族の出席の中での講演はぴったりのようでした。本当に桑原さん有り難う御座いました。

次に懇親会に移りました。この料理内容と雰囲気を見せて下さい。

◎チサ子……4,000円の会費ではこんなもんじゃないでしょうか。料理だけは3,000円と聞いてましたので結構あって腹も膨れました。

◎君子……会場が太陽の光と鍋の火の暖かさでその上、暖房がきいていたので頭が痛くなってしまいました。近くにいたチサ子さんに頭痛薬をもらって飲みました。そして楽になって後半部をハッスルしました。

◎レポーター……少し時間も急がせて食事を食べてもらいましたが食事中に内田さんのギリシャやエジプト旅行の話聞き木村さんにはホノルルマラソンの事を聞き始めたのですが中断してしまって申し訳なかったです。この食事中の内容で気にかか

ることは無かったですか。

◎チサ子……時間が無かったのでこれでよかったんじゃないんですか。

◎君子……初めての参加だったので自己紹介があったらよかったんだけどまたの機会を楽しみにしています。

◎レポーター……オークションの事について聞きます。どうでしたか。

◎チサ子……品物のせりが楽しくって財布と相談しなくても買いたくなりました。これからもたまにはこういったことをしてもらいたいと思います。良い資金稼ぎ方法だと思います。

◎君子……帰りの荷物の事を考えなければもっと買いたかったです。すごく楽しかったです。これからも続けてもらいたいと思っています。

◎レポーター……そこで何を買ってくれましたか。

◎チサ子……釜本会長の出してもらったタイのスカーフと湿度計、キーホルダーの音声時計、飴とチョコレートのセット、バスタオル、手ぬぐいなどです。帰りの電車の荷物が苦になって大きい物は買えませんでした。

◎君子……夫の好きなさんまとあじのひもの。河原会長の心こもる作品のランコエ、風呂敷で作った巾着、ネックレス、タオル、ケトルは「これはいいなあ」と夫がほめてくれました。もっと石鹼とかコップのセットを買いたかったんですけどね。

◎レポーター……全般的に気が付いたことなど無かったですか。

◎チサ子……時間の流れも良かったと思います。商品もみな売れたらしくて良かったですね。みんなが喜んでいてもらったようで良かったです。

◎君子……すごく楽しかったです。恥ずかしいけどここに一日の感想として一句読んで見ました。

梅香る 宿につどいて 耳かせば

150才の 深喜愛あり 君子作

◎チサ子……私も作ったのよ。聞いてね。

夫婦こそ（めおとこそ） 老いての介護 旅先で

妻の笑顔に ほっと安心 チサ子作

◎レポーター……このお二人に感想を述べてもらいましたが、もっと沢山の方のご意見も聞いて今後の参考にしていきたいと思っております。

今年は沢山のご参加とオークションへのご協力を頂けた事が何に優る物は無かったです。それに品物を提供して下さった方はもとより、それを高額で競り落として下さった方々に熱くお礼申し上げます。これも2002年のRI世界大会へのご協力のつもりでと思いのこもった結果だと感謝いたし受け取らせていただきます。

それとこの行事でめだちましたのがご家族のご協力に寄ってご参加下さった方が36名を占めていました。全員では48名で前日までに一人も取りやめる人もなく追加のみという集計で取りまとめている者としてはとっても嬉しいばかりでした。本当にご支援ご協力有り難う御座いました。スタッフ一同感謝致しております。

「ハワイ・メイヤーズウォークに参加して」

昨年12月7日から5日間の日程で、ハワイ・メイヤーズウォークに夫婦で参加しました。その時の様子や感じたことなどをちょっと聞いて頂けたらと思います。

このツアーに参加した人は、目のまったく見えない人、少し

見える人…全員が同じような立場の人ばかりでした。だから、何をしていても肩の力を抜いて行動できたし、初めて会った人たちなのに、今までもずっと知り合いだったような感じでした。

ウォーキングの時には主人に助けてもらいながら、10kmを歩くことができました。ふだん、ウォーキングをしている私にとっても決して短い距離ではありませんでしたが、歩ききることができました。歩き終えた後は、本当に気持ちがスーツとしました。有森裕子さんとお会いできたこともうれしかったです。

また現地の方は、とても気さくで親しみやすく、買い物などの時、主人は日本語まじりの英語でとても楽しそうに話をしていました。

ツアーから帰ってきてからも、同じツアーに参加した人から連絡を頂いたりして、また輪が広がったなあと感じています。またこういったツアーがあれば、ぜひ参加したいと思います。

伊藤三和子

いつも三重支部をご支援していただいている皆様は下記の方々です。

一尾 多佳子 様

上田 幹男 様

岡野 章子 様

小川 由智 様

カイバナ眼科クリニック御中

庄司 雅子 様

仲 威彦 様

仲田 美代子 様

—◇編集後記◇—

今回の会報には海外旅行の記事が多くありましたが2004年にオランダで世界大会があります。

是非皆さんお誘い合わせのうえ、世界大会に参加しましょう。

1. 13年度の総会と医療相談会は6月3日（日曜日）松阪で講師に大阪大学の森村先生をお招きして予定しております。
2. 1月28日の新春交流会の2002年RI世界大会資金カンパのオークションの結果を報告させていただきます。
  - イ、オークションの売り上げ 72000円
  - ロ、現金による寄付 57000円
  - ハ、交流会の参加費の残金 27210円以上をRIの世界大会に寄付しました。
3. 未使用のテレカは今のところ77枚になりました、100枚になりましたら換金してRIの世界大会に寄付したいと思っています。このことにも引き続きご協力をお願いします。
4. カセットテープの寄贈を受けました、聞きたい人は支部長まで連絡下さい。
  - イ、NHK福祉賞、銀の滴文芸賞、のどじまん  
以上4巻をNHK文化厚生事業団より。
  - ロ、佐藤 秀廊追想録5巻を伊藤静生 様より

河原洋紀

発行人：障害者団体定期刊行物協会  
東京都世田谷区砧6-26-21

編集：RP三重会報編集部 河原洋紀  
〒515-0847  
松阪市岩内町614  
TEL/FAX 0598-58-2664  
E-Mail hk2664@aqua.ocn.ne.jp

定価200円